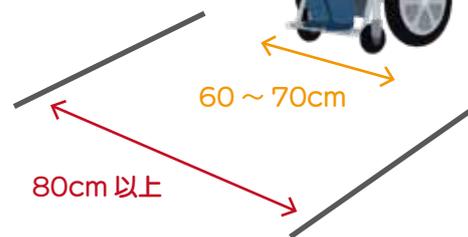


イベントづくりのヒント 「当日対応編」

イベント準備



電動車いすの横幅は60～70cm。
80cmは空けておくと安心かも。



□ 通路の確保はできている？

- ・わかる範囲の障害物はできるだけ避けておきましょう。
モノや段差があまり多くないように。

□ レイアウトはどんな感じ？

参加者それぞれ、「見えやすい席」「周りの音が気にならない席」「途中で退室しても目立たないよう後ろの席」など、希望の席は違います。ひとりひとりとの対話によって心地いい参加の形を考えましょう。

イベント体験中



聴覚障害の方は口の動きを見て何を話しているのか参考にする人も。そういった人がいる場合、口元を覆うマスクはバリアになるかもしれません。

□ どんな話し方がいい？

みんなが聞き取りやすいように、ゆっくり、大きな声で話しましょう。やさしい日本語も意識しましょう。

□ 資料はある？

講座などで使用されたスライド資料は、持ち帰れるとイベント中に見逃していたこと、聞き逃していたこと、周りの速さについていけなかったことを確認できます。



視覚障害の方は資料が見えない、もしくは見づらいです。
スライド資料の代わりに、講座内容の録音をOKにするなどの配慮があるとより良いですね。



□ 色んな人に届けられそう？

同時翻訳ツール（UDトークなど）や手話通訳者などコミュニケーションを助ける工夫を事前に準備しておけば色んな人が参加できます。

□ 想定外のことが起こった！ どうしよう？

慌てず対応しようとする姿勢や、「意外とやったらできる！」というマインドが大切です。そして当事者の方と一緒に「どうやったら解決できる？」と話し合いを重ねてみましょう。自分たちだけでは答えを出せない質問（例「車いすで和室に上がっていい？」など）があった場合は、その貸会場の施設管理者に確認してみましょう。



過剰に気を遣いすぎなくて大丈夫！

障がいがあるからと過剰に気を遣われるのはイベント主催者にも他の参加者にも申し訳ない…、過度に配慮されると逆に行く気無くなる…、という当事者の声も。あくまでできる範囲で、その人自身としっかり向き合って対応を決めましょう。